

言語教育に劇づくりが効果的なのか？
～夢中になるから英語が話せる～

小口 真澄（英語芸術学校マーブルズ）

「何故、言語教育に劇づくりが効果的なのか？」今回、参加者の皆さんに劇づくりを体験していただきます。劇というと、大袈裟に大きな声で演じると思われ、苦手意識がある方も多いことでしょう。ここで体験していただきたいのは、相手の目をよく見て、相手に届ける台詞の連続で創られる劇です。押し付けの表現や無意味に大きな声は求めません。

“I can do it.”とただ言っただけでは意味はありません。ところが、状況設定すると、“I can do it.”が生きた言葉になって相手に伝わります。<自分を鼓舞するための>“I can do it.”や、<私はできる！自慢の>“I can do it.”と言い方は違ってきます。台詞はただ覚えて言うのではなく、プロの役者たちも行うように、状況の分析が必要です。歴史的背景を話し合ったり、どんな場所だったのかを想像してみる。この人はどうしてこんなことを言ったのだろう、と台本を分析すると想像力はどんどん膨らみワクワクしてきます。また、劇づくりは決して一人ではできません。相手と関わっていくことで生まれる共同作業です。心を動かしながら作品創りをする達成感は、言葉では言い尽くせないものがあります。体験から劇づくりがどう言語教育と結びつくのか感じてみてください。

劇づくりをしていると本番いろいろな事件が起こりますが、後戻りすることはできません。たとえ相手が台詞を間違っていたとしても、それを否定することなく受け入れて、進むしかありません。

【The show must go on.】の精神です。とにかく何があってもゴールに向かって進む！そんな強さが自然と生まれてくるのも演劇教育の醍醐味です。

今回は、1963年8月にマーティン・ルーサー・キング牧師が行った有名な I Have a Dream の演説を題材に、皆さんとシーン創り、劇づくりをします。劇の経験のない方こそ、是非ご参加ください。